

透明感のある音

小川 明奈

演奏学科声楽専修 2年

先日、『高尾山が好き・音楽の調べー自然とともに生きるよろこびを』というテーマで梯剛之さんのピアノリサイタルが行われました。高尾山の高速道路のトンネル工事に反対する市民団体主催のリサイタルです。約千五百人収容のホールは、子供からお年寄りまで幅広い年齢層のお客さんでほぼ満席。演奏が終わる度に「今日来られてよかったね。」「すごくきれいな音だった。」とあちこちから声が聞こえて、会場全体がとても温かい雰囲気でした。ホールに響く梯さんのピアノの音は本当に美しく、客席で熱気や感動を多くのお客さんと一緒に感じることができて、とても心に残るリサイタルでした。

さて、皆さんは専門分野の勉強以外で、クラシック音楽を聴きますか？もしかししたら、自分の勉強している分野以外の音楽のほうがかもしません。毎日学んでいく上でテクニックや表現ばかりが気になって、他の音楽家の演奏も自分の気になる部分を聞こうとして構えてしまうことはありませんか？どんな芸術でも受け取り手が心で感じたり慈しむことで本当の素晴らしさを知ることができるのだと思います。難しく考える必要はありません。ただ落ち着いて、日ごろ考えていることを頭の隅っこに一旦しまうだけです。心に少しの余裕ができると、その隙間に響きや色が入り込んで大きな世界をつくり、その美しさに胸がいつぱいになることでしょう。そしてそのことは演奏者にとっても大切なことだと思えます。梯さんの奏でる美しく澄んだピアノの音は胸の置くまでずっと入り込んで心の琴線に触れます。梯さんの心のうちの美しいと感じる気持ちや音楽を愛する気持ちの結晶が、美しいピアノの音となって豊かな音楽の世界を築いているのでしょうか。

今回紹介するCDは梯さんが17歳のときの初めてのCDです。モーツアルトのソナタは清らかで美しく、ブラームスの6つのピアノ小品からは晩年の胸が詰まるような孤独感や内面的な奥深さが伝わってきます。そして、ショパンのノクターン第8番は夜空に浮かぶ星のように静かで繊細な輝きを放っています。どの曲もそれぞれの魅力に満ち溢れていて、聴く度に大きな感動と驚きがあります。私は梯さんの演奏から、素直な感覚を持ち続けることの大切さを改めて感じました。あなたもまずはこのCDを楽しんでみませんか？



請求記号 ●XD33844
『梯剛之 ピアノ・リサイタル』
(Art Union, ART-3039)

●おがわ あきな もうすぐ秋がやってきます！
『の秋』皆さんの『』はなんですか？

クララ・シューマン
【愛の手紙】
新しい世界への扉

高橋 幸恵

演奏学科声楽専修 4年

国立での生活も早4年目の半ばにさしかかりましたが、これまでの間に多くの人や、多くの新しい音楽の世界に出会い、入学した頃の頃にレクチャークンサートで目を輝かせた感動がさめることなく、毎日を送ってこられたなあと感じています。そして図書館もまた私に多くの出会いを与えてくれる場所でした。

大学での新しい出会いの一つにドイツの世界があります。それまで遠い国でしかなかったドイツが、歌曲を通じて美しいイメージを伴って身近に感じられるようになりました。中でも昨年はシューマンの歌曲を多く学び、心が暖かく満たされるような美しく繊細な響きのとりこになり、そ

の夢見るような世界にどっぷりとつかっていました。私が学んでいた曲、ミルテの花や二つのリリーダークライスはどれも「歌の年」と呼ばれる年に作られたものであり、シューマンが溢れるように歌曲を作る源となったクララとの愛とはどのようなものであったのだろうかと考えていたときに、図書館でこの本に出会いました。

タイトル「愛の手紙」の通り、この本は二人が取り交わした手紙が中心となつて物語が進んでいきます。天才少女ピアノリストとして育てられたクララの幼少期から、シューマンとの出会い、そして長い試練の時を経て結婚に至るまでが書かれています。十ほど歳が違い初めは兄妹のようだった二人の間に徐々に愛が芽生えていく様子が手紙の中に見ることが出来ました。クララの父ヴィークの激しい結婚反対により過酷な恋でしたが、それで消えるどころか確信を増していく二人の愛に感動せずにはいられませんでした。

二人の愛の行方を知ることの他に、この本の特にお勧めしたいところは、登場人物の華やかさです。メンデルスゾーンやショパ

● たかはし さちえ 今ちょうど教育実習前なので、図書館ではもっぱら実習に使えるような本を探しています。面白い本をたくさん見つけました。



請求記号●C54-234
クララ・シューマン：
愛の手紙/北宋社/1991

ン、リストなどドイツロマン派のスター達、音楽史に名を刻む数多くの著名人たちがシューマンとクララを囲む人々として登場します。本を読むまでそれぞれの人物を音楽史の点として捉えていましたが、それらの点同士が線で深く繋がっていたことに驚きました。他の出版社から出ている続編にはブラームスやワーグナーらも登場します。19世紀の様子や当時の演奏家の生活、音楽界の風潮などを知ることが出来るところもお勧めです。堅苦しくなく普通の物語としてもとても読みやすい本なので是非読んでみて下さい。

残りの大学生活であとどれだけ新しい世界への扉を見つけ、中を覗くことが出来るだろうか考えるわくわくします。新しい音楽の世界を探しに、出会いを求め図書館に足を運びましょう！

コンクール資料の探し方 OPACワンポイント・アドバイス

■コンクールの実況録音CDや映像資料を探したいとき

人名・団体名のボックスに、コンクールの名称を入れて検索してください。

例) フレデリック・ショパン国際コンクール

正確な名称がわからない場合は、わかっている言葉を入力してキーワード検索(F7)してみましょう。日本語で探したい時は、カタカナで入力の方がうまくいく場合があります。

例) ショパン コンクール

例) コンクール ピアノ

例) スイソウガク コンクール

開催年をいっしょに入れてキーワード検索し、特定の回や年次に限定して絞り込むこともできます。

例) コンクール ガッショウ 50

例) スイソウガク コンクール 2000

タイトルのボックスに入力して検索するのではないところがミソ。

■さまざまなコンクールについての本を探したいとき

① 件名のボックスに“コンクール”と入れてキーワード検索してください。

② 当館図書分類(資料)のボックスに“X-836”と入れて検索してください。

①、②それぞれの方法の検索結果は多少異なります。また、2の方法では、音楽祭や音楽賞についての図書もあわせて検索されます。

どちらの探し方でも、図書(和書)にチェックを入れると、日本語の本だけを探すことができます。